

宮崎県内で口蹄疫の流行が始まり、初期の感染拡大防止に失敗して、県内は大混乱に陥っています。今後の対応に活かすためにも、初期対応が失敗した理由はきちんと検証されなければなりません。一方で、感染拡大防止のため、大量の牛や豚が、感染しているかどうかを問わず殺処分されていることなど、何とかならないのかとの疑問も浮かぶ。

初期段階でもっと厳しい対応をとるべきだったのではないか、と考えつつ、過剰な殺処分はやめてしまふ。多くの国民はそうした矛盾した感情を抱いているのではあるまいか。

口蹄疫について専門的知識があるわけではないが、政府や宮崎県の一連の対応を見ながら、幾つかの疑問について筆者なりに調べてみたので、本稿を借りて整理しておくことしたい。

赤松農林水産大臣を本部長とする「口蹄疫防疫対策本部」が設置され、「口蹄疫に関する特定家畜伝染病防護指針」に基づく様々な対応がとられたが、その後も感染は拡大を続けています。

5月31日現在で、合計247の牧畜業者や畜産農家で感染が確認され、同一畜舎等にいた牛3万1000頭、豚13万3000頭、計16万4000頭が口蹄疫にかかる見当がつかないほどだ。

「口蹄疫は何故恐れられるのではないか」とさ

る。宮崎県内で口蹄疫の流行が始まり、初期の感染拡大防止に失敗して、県内は大混乱に陥っています。今後の対応に活かすためにも、初期対応が失敗した理由はきちんと検証されなければなりません。一方で、感染拡大防止のため、大量の牛や豚が、感染しているかどうかを問わず殺処分されていることなど、何とかならないのかとの疑問も浮かぶ。

赤松農林水産大臣を本部長とする「口蹄疫防疫対策本部」が設置され、「口蹄疫に関する特定家畜伝染病防護指針」に基づく様々な対応がとられたが、その後も感染は拡大を続けています。

5月31日現在で、合計247の牧畜業者や畜産農家で感染が確認され、同一畜舎等にいた牛3万1000頭、豚13万3000頭、計16万4000頭が口蹄疫にかかる見当がつかないほどだ。

「口蹄疫は何故恐れられるのではないか」とさ



恒牧野一

口蹄疫対策に対する幾つかの疑問

「ワクチンを接種すれば殺処分は不要ではないのか」

「ワクチンを接種しても感染は完全には防げず、ウイルスの増殖が相当程度妨げられるだけだ。だから、感染拡大速度が遅くなるという効果はある。発できないものか、と思

行が始まり、初期の感染拡大防止に失敗して、県内は大混乱に陥っています。今後の対応に活かすためにも、初期対応が失敗した理由はきちんと検証されなければなりません。一方で、感染拡大防止のため、大量の牛や豚が、感染しているかどうかを問わず殺処分されていることなど、何とかならないのかとの疑問も浮かぶ。

【宮崎県の口蹄疫の感染拡大】

宮崎県で口蹄疫ではなくいかと疑われる牛が見つかり、この牛を遺伝子検査した結果、陽性と判明したのは4月20日のことだった。ただちに「家畜

伝染病予防法」に基づき、分されたところとなつた。

口蹄疫は、口の中やひらきの付け根などの皮膚の柔らかいところに水泡

ができる、それが破れて傷

を食べられないとか歩け

ないなどの障害が出る病

気だ。この病気にかかる

と、家畜は元気がなくな

り、肉質が落ちるなどの

易なことでは収束できな

いため、牛や豚の生産地に経済的大打撃を与え

るからだ。

【なぜ殺処分するのか】

家畜伝染病では、「殺処分」はよく一般的な方法

論だ。家畜伝染病予防法

では家畜伝染病のまん延

を防ぐため、「宮崎牛」の血統の維持が

できなくなる恐れが出来

ている。そうなれば、経

済的被害は計り知れな

い。

「患畜」なるともかく、

い」と定めており、大臣

は、宮崎牛の種牛を飼育

する、国も県も「きち

りセーフ（疑似患畜ではない）の扱いを続ける。あるいは、やむを得ない（ようにもえられため、同施設内にいた種牛も患畜又は疑似患畜として、49頭すべて殺処された。感染牛確認前に疎開させ今のことろ

感染していない「エース

級」の種牛5頭以外は全

て殺処されたため、「宮

崎牛」の血統の維持が

できなくなる恐れが出来

ている。そうなれば、経

済的被害は計り知れな

い。

「患畜」なるともかく、

い」と定めており、大臣

は、宮崎牛の種牛を飼育

する、国も県も「きち

りセーフ（疑似患畜で

はない）の扱いを続ける

のではなかろうか。

そういう仕組みである

なら、危機管理の視点が

ら考へれば、貴重な種牛

の飼育施設は幾つかに分

散しておべきだつた。

だから、ワクチンを接種

した牛は全頭殺処分す

だ。

助長する可能性がある。

が遅くなるため、感染

し

ることが法治国家の前提

である。

49頭全頭の屠殺

めることができる。ただ、

ワクチンを接種した牛は

感染しても症状が出る

が遅くなるため、感染

し

ることができる。ただ、

ワクチンを接種した牛は

感染しても症状が出る

のではなかろうか。

その間に殺処分を徹底す